

Mizuho Bangkok Daily Market Report

MIZUHO

Dated of 2023/10/31

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.93	-0.17
JPY/THB	0.2410	-0.0002
USD/JPY	149.10	-0.56
EUR/THB	38.14	0.01
EUR/USD	1.0615	0.0050
USD/CNH	7.325	-0.008
SGD/THB	26.33	-0.02
AUD/THB	22.91	0.04
USD/INR	83.25	0.00
USD Index	106.12	-0.44

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.904	0.000
10Y (THB)	3.309	0.000
5Y (USD)	4.824	0.062
10Y (USD)	4.894	0.060

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,005.6	17
WTI (Oil)	82.31	-3.23
Copper	8,140.5	41.5

Stock

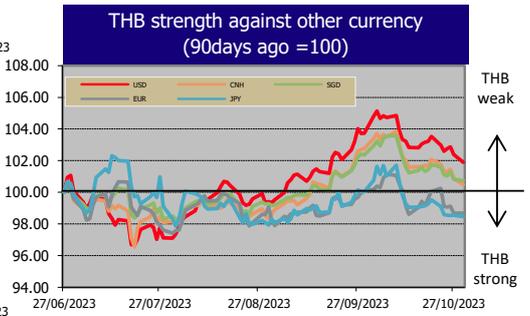
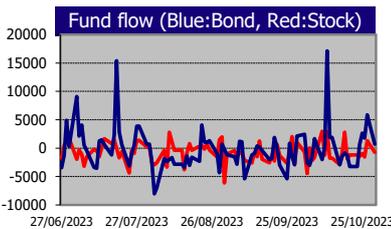
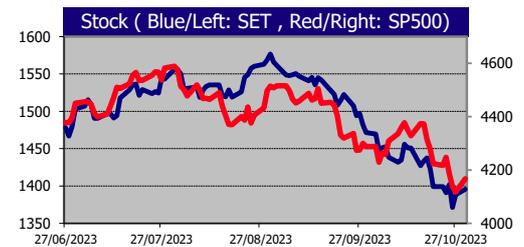
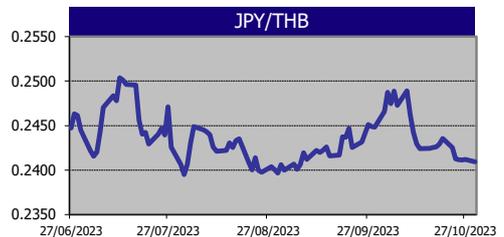
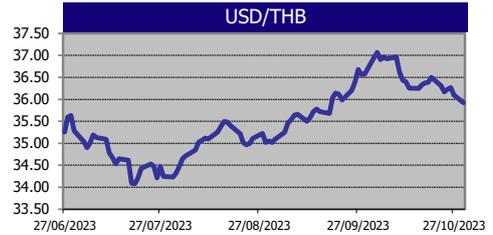
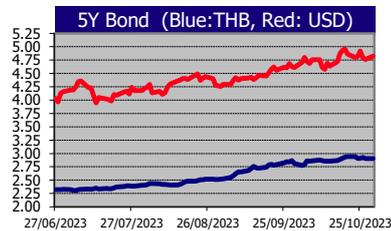
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,395.85	7.62
NIKKEI (JP)	30,696.96	-294.73
DOW (US)	32,928.96	511.37
S&P500 (US)	4,166.82	49.45
SHCOMP (CN)	3,021.55	3.77
DAX(GER)	14,716.54	29.13

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(751)	-2079.3
Bond net flow	724	-5167.8

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは下落。36パーツ台前半で取引を開始すると、前週末の勢いを引き継ぐ格好で上値重く推移し、バンコク時間午前中には35パーツ台を出現。直ぐに36パーツ台前半まで戻したものの、上値の重さは継続し、同水準での推移が続いた。欧州勢が参入してくると、再度下押し圧力が強まり、35パーツ台後半と約1か月ぶりの水準まで下落。終盤にかけては31日以降、日銀、FOMCと日米の金融政策会合控える中、様子見ムードが高まり動き乏しく推移。そのまま35.93レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は下落。149円台後半で取引を開始。序盤は実需の買いもあってかじりじりと上昇するも、日米中銀会合の結果公表控える中、勢いは続かず、バンコク時間午後にはオープンと同水準まで戻す展開に。海外時間に入り、イベント前の調整から一時149円台前半まで下落する場面が見られるも米金利の上昇を背景に149円台後半まで戻す等、ボラティルな動きが見られる中、日銀が「金利操作を再修正へ。長期金利1%超え柔軟に」とのヘッドラインが確認されると、一時148円台後半まで急落。終盤にかけて円買いが一巡すると149円台前半まで反発し、結局149.10レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

本日は日銀金融政策決定会合が最大の注目材料。先週時点では現行の金融緩和政策維持を予想する声が多かったものの、昨夜、YCC再修正の可能性を示唆する報道がなされたことを機に、日本国債先物は夜間取引で急落(金利は上昇)し、ドル円も一時148円台まで急落、今朝の債券市場で長期金利は1%手前まで上昇するなど市場の警戒感が高まっている。実際にYCCが修正されれば更なる金利上昇が生じる可能性もあり、本日昼頃の会合結果の公表には細心の注意を払っておきたい。なお、今回の会合では、政策修正の有無もさることながら、同時に発表される展望レポート内の物価見通しも注目点と考える。前回7月の展望レポート以降で円安と原油高が進んだことを考えれば、2023年度、2024年度の見通しが上方修正されることは所与として、焦点は7月時に1.6%とした2025年度のレベルがどの程度になるかだろう。仮に依然2%を大きく下回る見通しだった場合、日銀としてはそうした予測を出しつつ持続的な2%の物価目標達成が見通せたとする判断は示しにくいはずであり、本格的な政策修正が近いのか否か、その時期を占う上で2025年度のレベルの置き方にも注目しておきたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.